



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1936, 25(3): 240-242

ISSUE DATE:

1936-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184534>

RIGHT:

つては一福音である。本書は興安東西南北四省の各旗に別ち旗内の村落・河川・山嶺・廟等につきて簡単に解説せるもので其の数は多くないが、これによつても略蒙古地名の構成の大略を窺ふことが出来る。因に周知の一般地名の蒙古を挙げると山リオーラ、山嶺リダバ、山峰リハダ、河リゴル、江リムルン、旗リホシヨ、屯リエーラ、廟リスム、湖沼リノールである。(中村)

○大塚地理學會論文集 第五輯

大塚地理學會編

菊版三三四頁

東京古今書院發行 十年十二月

定價三圓二〇錢

我國地理學界の一方をリードしつゝある大塚地理學會論文集は其の第五輯を公にして多くの力作を載せて居る。人文各種の方面に亘つた論文の集成であるから通讀するのに氣分が換つて容易である。下記の主要論文の外に大會の講演要旨及び研究發表會の概要七十項が附載されてゐて新進學徒の成果を窺ふに都合がよい。但し編輯者の要旨に手を入れることが出来ない爲めか論文の方に出てゐるものも論文集第五輯に掲載される筈であるなど印刷してあるのは目ざはりである。(N)

榊田一二 濟州島人の内地出稼に就いて

村上節太郎 中豫地方に於ける水稻栽培の地域性

村木定雄 富士火山西南斜面の地誌學的研究(一)

山口俊策 官津灣附近に於ける漁業の地域性

位野木壽一 丸龜平野に於ける灌漑の地理學的研究
上原德 城下町轉移の地理學的研究(特に高崎)
内田寛一 武藏野の計畫的開拓の一例(下)
田中啓爾 我が國に於ける地理的南北性(第一報)

雜報

○但馬に於ける「屋切り造」家屋

寫眞は但馬國美

方郡小代村神場上治長治氏の家屋であつて、上は側面、下は正面である。但馬山間に於ける豪家の一型式である。切妻の兩端に葺き出しがなくて、防火壁の如く屋上に突き出し、小屋根を以て之を葺き舂裁を整へ、家全體の構造とよく調和を保たせてある。この壁を「屋切り」と呼び、元來、火よけ即ち防火のために考案されたる一構造であつて、曾て民家史の著者藤田文學士も述べてゐる。寫眞の如く「兩屋切り」もあれば「片屋切り」もある。同村水間、岡田幸之助氏(現、小代村長)宅は家の一方にだけ隣家のある關係上、片屋切りである。屋切りの兩側を「袖」と呼び、その内側には「福」「壽」「水」等の文字、又は「松」「鶴」「龜」「波」等の繪畫を畫いてある。入念の家屋は全部白壁を塗り、屋切りの上半は襖板を以て風雨に耐える様に造つてある(寫眞參照)。

屋切り造の家屋は大抵一部落に一―二月に限られ、全く之を缺く部落もある。これは建築費用の關係と階級意識との關

係らしい。従つて「屋切り造」は現今では單に防火の意味を失つて、山間の部落に於ける舊家、有力家なるを示す一表徴となつてゐる。

寫眞の家屋は瓦葺き三階造りである。小代村には六―七戸の三階家があつて、二戸は旅館で、他は民家である。民家の多くは茅葺き屋根を「棟換へ」したものである。茅葺き家屋の屋根裏の部屋は俗に「あまだ」と呼びて藁、冬季に於ける



但馬に於ける屋切り造の家屋
上圖は側面、下圖は正面、悠汀撮影

牛の飼料(乾草)、又は冬季の燃料(わりき、をどろ)などの置き場に利用してゐる。然るに「棟換へ」すれば屋根の傾斜を減じ、俗に「なる屋根」となり、天井が低くなつて、あまだの利用不可能となるが故に、自家の都合にまかせて、適宜に少しく高くして、利用に便ならしめる様にしたもののがこの邊の三階家屋で、この附近では必ずしも養蠶に利用しては居らぬ。特に、地學雜誌五六二號掲載の寫眞と異なる點は抜氣(大屋根上の小屋根、空氣抜き)の甚だ小規模なる點であつて漸く煙出しの用をなして居るに過ぎぬ。小代村の三階家屋、又は但馬の屋切り造(二階家屋もあり)は河野氏分類の五種の型式中建築の原因は何れにも似、形態は何れにも似ず、少なくとも建築様式外觀に於ては一種特別の型式である。(上治寅次郎報)

○東亞の大豆に就て

大豆は東亞の原産で、内地・朝鮮・滿洲に野生してゐる「ノマメ」又はツルマメといふのがその原種であらうといはれる、豆又は菽といふ莢殼の總名であるが支那では大豆生三(大山平澤・九月采)之(本草綱目)といつてゐるけれども、それが果して我等の今日いふ所の大豆と同じきや否や不明である。我國では神代に保食神から授かつたもので、マメとさへいへば直ちにそれは大豆であつて、豌豆でもなく、蠶豆でも、さゞげでもない。自然に白大豆をさしてゐて青豆や黑豆は其別種と心得る程に親密である。然るにこの大豆は歐米では十九世紀まで知らず、一八七三年英國ウキ

インの萬國博覽會に日支から出品されて初めてしられ、一九〇七年に經つた輸出があつた。その後歐洲で大豆栽培に苦心したがどうも思ふやうに出来ない。大戰後ますます豆の輸入を加へ、一九三二年には獨逸へ百十六萬噸、丁抹へ二十三萬噸イギリスへ十六萬噸、佛國へ一萬四千噸を入荷したのである。米國へ大豆が最初に輸入されたのは一八〇四年であるが、

一九〇八年以後熱心に研究され、最初は飼料用として今日では子實目的の栽培となつて概略二百萬エーカーの栽培反別となり、一九三一年に米國からの對歐輸出大豆は滿洲を凌ぐ程になつた。つまり我日支滿共通の大敵として米國の大豆が現はれたものといへる。今米國の最近の報告をみると、一九三五年米國大豆總收穫量は作付面積二百二十六萬噐、三千六百五十二萬七千ブツセルの多きに上つた、イリノイス・アイオワ・インディアナ・ミゾリー・ノースカロライナが主産地で

イリノイス 一八、九三五、〇〇〇 ブツセル

アイオワ 六、六三三、〇〇〇

インディアナ 五、二七〇、〇〇〇

ミゾリー 一、六二二、〇〇〇

北カロライナ 一、二三二、〇〇〇

であつて、オハイオ・デラウエア・ヴァージニア・ミシガン・ミシッピ・ルイジアナ・テキサス・アラバマ等これにつき中央部の平原につくられる。

かくて油斷する間に米國大豆は我滿洲や朝鮮の大敵となつ

てゐることである。しかしボーディッチ氏の説によると獨逸で大豆の蛋白質の含量を計算すると、米國大豆は三五—三六%の蛋白含有量であるのに對し、滿洲大豆は三六—三八%であるから價值が高い。朝鮮大豆は、水原農事試験場でしらべると三八—四五%に達しこゝでも蛋白含有量に於て勝るといふ事である。

大豆は蛋白の外に油があるが最近の吉林省報告によると公主嶺農事試験場で改良した大豆は「黃寶珠」といひ品種大粒で、早魃に強く在來種に比して一割乃至五割の増收となり油含有量は一、五乃至五%の増加である。且つ著しく早熟であるといふから、大にその栽培に努力するときが如きは何よりもうれしい。バイパー氏の計算では米國大豆は蛋白質三〇—四〇%、脂油一二—二四%となつてゐる。

大豆はこの油で石鹼・塗料・リノリウム・印刷インキ・防水用の油、又はグリセリン・火藥・セルロイドともなり、サラダオイル・人造バター・乳葉・粉ミルク・コンデンスミルク・コーヒー代用品等にもなるもので貴重な穀物である、しかも大豆と米とは天照大神より授かつた東亞隨一の穀類であるのに、そのお株を米國に奪はれんとするに至つては心外ではないか。

最後に内地の大豆は反當八斗六升であるが朝鮮滿洲は反當五斗六升にすぎない。かうしたことも合せ考へて、この國費的東亞の穀物を盛んに研究し、將來は大豆として輸出するのはなく他の完成品として輸出したい。またさういふ風に努力すべきであると考へる。